



特別対談 「就職活動をもっとリアルに！」

後列左から 小宮克弘 学生支援センター長(進行)、服部奈央 総合企画部広報チーム受入インターンシップ生(9/8~12)、福田隆真 総務企画担当副学長補佐、前列左から 塚原正人 教育学生担当副学長、丸本卓哉 学長

(9月10日実施)

就職支援について語る

学 長 ・丸本 卓哉
副学長(教育学生担当)・塚原 正人
(聞き手) 学生支援センター長・小宮 克弘

小宮 今日山口大学の就職支援につきまして、学長、副学長とともに話を進めていきたいと思いません。話の進行係を務めさせていただきますのでよろしくをお願いします。

就職支援に限らず一般に学生支援に携わるとき、どこまで学生を支援し、どこから先は学生自身の努力に任せるべきなのか戸惑うことがあります。かの有名な広中レポート^{注1)}の中にも学生に対してあまり迎合的になってはいけないという件^{くだ}があります。あまり支援し過ぎると、自主性や自立性の乏しい若者を育てることにもなるわけで、その線引き^{くわ}というか兼ね合いが難しく、学生支援に携わる者たちの永

遠の課題とと思いますが、学長、副学長は如何お考えでしょうか？

丸本 広中先生もおっしゃっているように、学生が自分の持っている実力を発揮できるようにサポートするのが我々の役目だと思うんですね。力がない学生が最初は1年生で入ってくるわけですけども、キャリア教育が山口大学は充実していますから、そういうところで社会人になることに対する意識をきちっと持ってもらえば、自分の希望と能力を4年間なり、あるいは大学院生活を通して、どう身につけたらいいかということがわかると思うんです。

それをわからないまま3、4年生の就職活動の時期になってあわてても間に合わないことになります。だからそのことを最初の1年生のときに自覚してもらうことが一番大事です。それから次には、自分がどういうところに就職したいのかということを決めていくわけですけど、普通は1年やそこらで何になりたいかってことがはっきり決まる人は、医学部と獣医学科は別ですけど、まだ漠然としているような状況が結構あるんじゃないかと思います。そうすると大学としては学生に対して、こういう仕事に就きたいと思ったら、スキルも含めてどういうことが必要かということをしっかり考えてもらう場をつくることです。そのため、平成18年に学生の自主活動ルームを設置しました。それから就職支援アドバイザーといつでも気楽に話ができるような場と雰囲気をつくってあげるということですね。これが一番重要だと思います。

ところが、学生はついわがままになって、勝手なことを言い出す恐れがときどきあります。社会に出たときは大学と違って厳しいですから、自分で努力をして4年なり6年間の間に身につけておく必要があるもの、それをきちっと学生さんにアドバイスし



山口大学長 丸本 卓哉

てやるのが非常に重要かと思います。

塚原 学生をどうサポートするかっていうことですけど、やはり学生も多様な学生がおります。例えば、放ったらかしにしても、自分でちゃんとやっていく学生もいれば、手取り足取りしなければならない学生もいます。私は小児科が専門ですが、親身になって考えてやるということですね。身内とか親類の子供さんたちには一生懸命考えてあげますよね、その子にとって何が一番いいかというスタンスでやったらいいと思います。

学生の就職の志向性でも、いろんなキャリア志向がありますよね。安定が欲しいとか変化が欲しいとか、何か一発当ててやろうとかですね、いろいろタイプがいるから、その人にあったものを相談の中で意見を聞いていくことが必要じゃないかと思います。ただ、一方的にこちらがこうあるべきだろうということじゃなくて、個性に見合った相談というか、そういう体制がどうしたらとれるかというのが課題だと思っています。



教育学生担当副学長 塚原 正人

ニートやフリーターにならないために

丸本 フリーターだとか、あるいは就職せずにもうちょっと自由しておきたいという考えの人がいますが、これはものすごく自分の人生にとって不利になるんだということをしっかり自覚してもらうことが非常に重要だと思います。

4年生や6年生あるいは修士を出たときに就職のタイミングを逃すと、その後の就職が簡単にはいかないことが多いのです。簡単にいくと思ってる人が結構いますが、そういう話を御両親なんかにもよく相談していればいいですが、してない人がほとんどですよね。先輩や先生にもあまり相談せずに、もう面倒くさいからしばらく自由にしようかって、目的を持たずに自由にする今は楽だと思ってしまうのでしょうか？例えば1年留年して外国に行って語学の研修をしてくるんだとか、目的を持って1年フリーターになるのは悪くないと思うんですけど、何も目的がなくてただぶらぶらしているというのは、本人にとっても御家族にとってもマイナスなんです。それだけは就職支援の方でもしっかり指導していく必要が

あります。

小宮 ニートやフリーターの発生も抑えるということで、山口大学では学生たちが実際に就職活動に入る前の1年生、2年生の早い時期からキャリア教育を実施しています。具体的には「キャリアデザイン」や「キャリアと就職」などの授業が開講されてまして、1,200人ほどの学生が受講しています。さらに「ボランティアと自主活動」や「知の広場」などの授業もキャリア教育だと位置づければ、もっと多くの学生がキャリア教育を受講していることになります。

塚原 キャリア教育とかキャリアデザインの支援とかいろいろ言いますが、これらは独立したものではありません。就職支援からキャリア支援というふうに変ったのも、やっぱりその人の生涯を通じての人格形成の中での就職という考え方をするからです。大学はGP^{注2)} とカリキュラムマップ^{注3)} を策定して、こういう人間を育てるのだという目標をきちっと定めて、それをしっかりやるこ



学生支援センター長 小宮 克弘

とがキャリア教育です。社会人基礎力とか学士力とか言われますけど、こういう力をつけておけば、特にテクニックとか要らずに、あらゆる方向に就職できる力が身についていくから、それこそまさにキャリア教育になるんじゃないかと思います。

正課外での支援

小宮 山口大学では正課の授業以外のところでも、学生のキャリア形成力の向上を図るための支援を行っています。例えば学内業界・企業研究会の開催と自主活動ルームの活動です。学内業界・企業研究会は毎年度12月から3月にかけて実施しています。全国の企業等の人事担当者に山口大学に来ていただき、ブース形式で学生たちとの懇談の場を提供しています。学生たちはそのブースに行き、各企業やその企業が属する業界についての情報を得ることによって、勉強します。平成19年度は367社の企業の参加があり、学生は延べ4,733人が参加しました。これは山口大学が全国の他大学に誇り得る一大就職

支援企画であると自負しています。

それからもう一つは先ほど丸本学長のお話にも出ましたが、自主活動ルームです。ここでは「おもしろプロジェクト」^{注4)}への助言や各種のボランティア情報の収集・提供やコーディネートを行っています。学生たちはここで紹介されたボランティア等の自主活動を地域社会へ出かけて行って行きます。これによって学生たちは、塚原副学長のお話にもありました社会人基礎力を養うことができます。視野を広げ、人と人との交流も広がって学生たちは本当に人間として大きく成長していきます。

この自主活動ルームについては他大学の関係者も強い関心を示しており、ときどき視察に訪れることもあります。就職支援室と自主活動ルームとの連携もうまく機能して、充実した就職支援体制になっていると思います。

丸本 塚原副学長もおっしゃいましたが、あまり学生にこうしろ、ああしろって言わない方がいいと思うんです。ただ就職というのが自分の人生において、どういうウエイトを占めているのか、どういう意味、重要性があるかということをしっかり考えてもらうことが大切です。そして課題探求能力など、学生に対する社会からの要求がありますが、それらは講義を聞いて身につくものじゃない。やはり体験するということを通して身につくものだと思います。その体験するということの一つがボランティア活動やインターンシップなどによる体験だと思います。できるだけ学生さんに体験させるというチャンスがたくさん与えれば、課題探求力や学士力がつくと思います。そういう意味では山口大学で実施している「おもしろプロジェクト」、あれも非常に素晴らしいと思います。

塚原 就職に関しては先ほども言いましたけども、多様な機会を与える、そしてできたら参画型の授業とか体験授業を増やす。学内業界・企業研究会もキャリア教育の一環としての体験型学習だと思います。「知の広場」を通じて、いろんな職種があるということをもっと知る必要があります。ですから、いろんな方に来ていただいて話を聞く機会をたくさんつくるのが大事ななと思うんですね。そういう意味では、本学の先生のみならず、外からの人材を



活用して、そういう人たちにいろんな就職支援をしていただくというのが非常に大事だと思います。

小宮 公務員試験対策講座や教員採用試験対策講座などを生協と連携してやっています。山口県若者就職支援センターは「YYジョブサロンin山大」という名の支所を大学の就職支援室の中に開設して、学生たちの相談に応じてくれています。

塚原 生協の意味合いは非常に大きいと思います。学長が常々言っておられる「共育＝学生とともに育つ」という意味では、生協と大学がやっぱりタイアップして、学生支援をやっていかなければならないと、常々思っています。それで今後、生協と一緒にいろんなハード面、ソフト面の環境づくりをやっていくことが非常に大事だと思います。

支援体制の強化拡充

小宮 他大学では就職支援部門の長に学外の就職情報関連会社から専門スタッフを登用している例もあります……。

丸本 私もそういう方向を目指した方がいいと思います。昔の国立大学時代と法人化後の違いという

のは、昔は文部科学省にお願いすれば、全部何でもやってくれたという時代があったんですが、法人化後は、大学独自でいろんなことを進められるようになりました。しかし、大学の中にはそういうスペシャリストがあまり育っていなかったんですね。実際そういうポストに専門的な力を持った人が座るといのは、今後非常に重要だと思います。

塚原 就職支援強化というところで、二つ考えることがあります。一つは山口の本部キャンパスから離れている宇部の工学部における就職支援体制の強化です。工学部は学生数も多いし、就職支援は大切なことですが、現在はまだ学生支援センターの専任を配置していません。それともう一点は、留学生30万人計画があって、山口大学も対応を迫られて、学長からもぜひそれに乗っかっていくようにという指示をもらっているんですけど、留学生の就職支援にも力を入れ始めました。留学生の日本で働きたいという希望に応える必要があります。これから学生支援センターでもそのような取組をやっていかないといけません。

最後に

小宮 いろいろお話を伺ってきましたけれども、最後に学生たちに激励のメッセージをお願いします。

丸本 就職することの重要性をできるだけ若い1年生、2年生の時からしっかり考えてほしい。それと、企業の求めている人材というのは、元気のいい学生ですよ。元気がよくて、チャレンジ精神がある学生。若いときは皆さん失敗も結構ありますが、そういうときになよなよとなるんじゃないで、失敗してもどんどん積極的にそれを解決するために、チャレンジする精神をもってほしい。そういう元気のいい学生に育ててほしいと願っています。

塚原 学生支援にはいろんな部署があって、学生サービスや支援をしていますけども、意外とそれが活用されていないんじゃないかという気がします。学生たちももっと身近に感じて、何でもいいから話しかけてほしい。そうすると、教職員も耳を傾けて、



それに対応していく。どうもまだ学生と教職員との間がスムーズな流れになってないような気がするから、そこを埋めていくというのが課題かなと今思っています。ぜひ気軽に、どこでもいいから来てください。何でもいいから話してほしい。そこから始まるのかなというふうに思います。

小宮 大学の評価は卒業生の活躍に負うところもかなりありますから、学生たちにはそれぞれの個性に基づいて将来を見据えた職業選択をしていただいて、卒業後活躍してもらいたいと思っています。

塚原 山口大学は予備校で行っている「就職指導や資格取得に力を入れているという印象がある大学」など各種の就職ランキングでも上位に位置しています。

丸本 山口大学の卒業生で社長になった人もたくさんいます。そういう先輩がいろんなところで活躍しているという情報も学生たちに元気を与えるんじゃないでしょうか。フリー、フリー 山大学生!!

就職支援室をご活用ください。

就職支援室は、本学学生の就職活動を全学的な立場から支援することを目的としております。詳しくは、山大的☆就職活動(P13)をご覧ください。

■就職活動に向けて

対談に同席して感じたのは、山口大学の職員の皆さんが私たち学生のことを親身になって考えてくださっていることです。丸本学長は、学生の相談窓口である学生支援部に力を入れていきたいことを仰っていました。就職活動でも山口大学が大きなサポートをさせていただきます。その温かい心を無駄にたくありません。山口大学の学生は企業でも歓迎されるという嬉しいお話も聞けました。私たちは山口大学生として誇りをもって就職活動に臨んでいきたいです。

教育学部 3年 服部 奈央（総合企画部 広報チーム受入インターンシップ生（期間：9/8～9/12））

注1) 平成11年から12年にかけて、文部省に全国の大学等から有識者を集めて、学生支援に関する調査研究会が設置された。この研究会の座長を務めたのが当時の広中平祐・山口大学長であり、この研究会の報告書がその後、「広中レポート」と呼ばれるようになった。

注2) Graduation Policy。各大学が教育活動の成果として卒業時点までに学生たちに保証する、あるいは要求する最低限の基本的資質。

注3) GPを達成するための授業科目群の履修系統図。

注4) 学生が自主的に行う各種の地域連携活動や調査・研究活動などに大学が経費面での助成を行い、学生の人間力の向上を図る取組み。平成8年、広中学長の発案で始まった。平成17年には文部科学省の「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択された。

これから社会人になれる 山口大学の皆様へ

山口大学の皆さま、こんにちは

私は、中井工業株式会社の乾田と申します。今年度の採用をさせていただいたご縁もあり、この度は山口大学の広報紙に掲載させていただく機会を与えていただき、誠に有難うございます。私たちは、「未来は発想と技術の幸福な出会いから」をモットーに、薄膜コーティングによる高品質な工業用フィルムを提供することで、人々の暮らし、産業や社会の発展に貢献していきたいと日々努力を重ねています。



乾田 弘嗣
中井工業株式会社
総務部 課長

就職活動について

「やりたいこと」と「できること」は違います。「やりたくてもできないこと」もあれば、「やりたくなくてもできること」もあります。仕事で発揮できるのは、“やれる＝能力”と“やりたい＝意欲”の両方が必要です。

本当にその仕事がしたいのか、その仕事で良いのか、その業界・会社に本当に自分のやりたい仕事があるのか…それを情報収集しながら確認し、発見していく作業が就職活動そのものといえます。

相手の会社に自分を合わせる事が就職活動ではなく、自分の性格・能力、意欲が発揮できる仕事や自分と価値観が合致している会社を探し歩く旅、それが就職活動といえます。

社会人としてスタートする前に

皆さんは、これから社会人となって「働く」ことにより、収入を得て生活していくこととなります。給料をもらう分、学生時代と異なり仕事の責任も生じてきます。しかし、「働く」ことを通して自分自身を成長させることができ、社会の役に立つ喜びを感じることも出来ます。1日の生活時間の3分の1は職場で過ごすわけですから、職場で「働く」ことに喜びを感じられると、毎日の生活にも充実感を味わうことができるといえます。これから社会人としてスタートするみなさんの職業生活が充実したものになることを期待しています。

企業紹介



島根中井工業株式会社 第三工場

【中井工業株式会社】

中井工業は、1916年の創業以来、素材メーカーとして培ってきた技術を生かしながら、その延長線上で新しい製品を創ってきました。時代の変遷にあわせて、当社の事業内容も装飾の分野から、ハイテク商品（携帯電話・自動車・薄型テレビなど）には欠かせない透明導電性フィルム・液晶バックライト用フィルムなどの機能の分野へと向かっています。工場は、奈良、滋賀、島根にあり、営業拠点は京都、東京、群馬、ニューヨークにあります。

詳しくは、右記URLをご覧ください。 <http://www.nakai-group.co.jp/>

「感性」を伸ばす日々を

山口大学の皆さん、はじめまして。山口日産の末富と申します。当社は1929年に創業し、来年で80周年を迎える全国で最も歴史ある自動車ディーラーの一つです。山口県に深く根ざした企業であるのはもちろんですが、実は山口大学とも深い繋がりのある企業です。現社長が3代目の社長になるのですが、初代・2代目・3代目と3代連続で山口大学の出身なのです。そういったことから山口大学には深い想い入れがありますので、今回の内容が皆さんにとって、役立つ内容になればと思っております。

大学生の多くの皆さんが就職活動を経て、社会人になることを目指していると思いますが、社会人になるにあたって求められることはどんなことなのでしょうか？

社会人を対象にしたアンケートで「新入社員に最低限満たしてほしい条件」は

- 1位「挨拶ができる」
- 2位「やる気がある」
- 3位「素直である」
- 4位「遅刻、欠勤をしない」
- 5位「報告をきちんとする」

でした。これをご覧になって何を感じましたか？

とても当たり前のことで、高校生までにいろいろな人から言われたり、自分自身も大切だと思っていることではないでしょうか？ただ大学生になってから…。

また、こういったアンケートもありました「新入社員に一番期待すること」

- 1位「行動力・バイタリティ」
- 2位「将来のため、まずは経験の蓄積や資格・スキルを磨いて欲しい」



末富 健作
山口日産自動車株式会社
マーケット支援部兼人財育成室 次長

3位「新しいことへの発想力、創造性」

4位「専門スキル、技術」

5位「協調性」

今度は何を感じましたか？

随分と視点が変わっています。最低限と期待の間にはこれだけのギャップがあるのです。

では期待に応えられるようになるために大学時代に何をすべきでしょうか。社会に出るとOutput(結果)を求められます。Outputを出すためには、Input(情報・知識・経験etc)が必要です。ただ同じモノを見たり、聞いたりしても1吸収できる人と、10吸収できる人がいます。その違いは「感性」です。自分の時間を自分でコントロールできる範囲の多い大学時代は「感性」を磨くチャンスに溢れている時代です。たくさんのモノを見たり、聞いたり、味わったりと五感で経験をし、感性を磨いていただきたいと思っています。

企業紹介



【山口日産自動車株式会社】

1929年創業の山口日産は、2009年で80周年を迎える山口県で最も歴史のある自動車販売会社です。「一番古くて、一番新しくあり続ける」ために、「お客さまの視点から常に進化し続け」ています。メーカーである日産自動車からは、国内で総合経営表彰である社長賞を5年連続受賞。全世界では、約1万社の販売会社の中で、日本代表としてお客さま満足度表彰を3年連続受賞しました。

これからの地方自治体経営を担う若者に期待すること

はじめに（山口市の現状）

山口市を取り巻く環境は、少子高齢化による社会保障費の増大などによる財政負担増や、経済活動の大都市への集積による地域経済の縮小に伴う地域間競争や、市民の意識、ライフスタイルの変化に伴う市民ニーズの多様化など、近年、急激に変化しています。また、地方分権時代を迎えるにあたって、市民生活を支える地域経済の持続ある発展を目指して、山口市は「広域県央中核都市」としての中心的役割を担っていく必要があります。

求められる職員像

このような中で、これからのまちづくりにおいては、従来の発想とやり方では、市民が本当に幸せになれる地域を創りあげていくことは困難です。豊かな公共、新たな地方自治体経営の手法を、自らが考え、自らが決定していかなければなりません。職員は、今まで以上に地域の課題、問題点を発見し、解決の道筋となる施策を自ら立案する能力、立案した施策を実際の行動に移せる能力を持つことが求められています。このことは、皆さんが学生時代に得た知識や教養を、現場で実践していくことであり、山口市役所は、「生涯を通じて学び、自己成長のできる職場」と私は自負しております。

職員採用試験から見えてくるもの

近年の採用試験の受験生は、インターネット、本、公務員学校、大学の公務員養成講座など、試験に対する備えを十分されて受験されていると、筆記試験だけではなく面接試験でも感じます。職員採用試験は、学校の試験のような自己の能力を測り、自己を成長させるものではありません。また、採用試験は就職するための試験であり、合格、採用されること



中川 孝
山口市総務部職員課長

がゴールではありません。山口市職員となり、市民が本当に幸せになるために何ができるかが、スタートです。

おわりに

昔から「学生時代には、社会人ではできない経験をしておくことが大切」とよく言われますが、これは、学生時代には、社会人として形にはまらない発想で、自ら多くの経験を積み、広い視野を養うことではないでしょうか。求められる職員像の前提には「広い視野を持っている」ことが条件だと私は考えています。山口大学で広い視野を養った学生が、市の職員となられ、これからの責任ある地方自治体経営を、共に担っていただけることを期待しています。

職場紹介



山口総合支所

【山口市役所】

本市が目指す10年後のまちの姿「ひと、まち、歴史と自然が輝く交流と創造のまち 山口」を目標に、職員1,676名一丸となって、公務に取り組んでいます。また、今後の大きな事業として、2011年「おいでませ！山口国体」、2015年「世界スカウトジャンボリー」の開催が予定されています。

就職活動応援します！

YYジョブサロンのキャリアカウンセラー、田中久美子と申します。

今から数年前、私も皆さんと同じ山口大学で学生生活を過ごしました。

私が就職活動で経験したことや、現在キャリアカウンセラーとして学生と接する中で感じたことが皆さんのお役に立てばと思います。



田中 久美子

(教育学部平成14年3月卒)

山口県若者就職支援センター(YYジョブサロン)
キャリアカウンセラー

私の就職活動

就職活動を始めたのは4年生になってからでした。周りの友人は公務員志望だったこともあり、民間の就職活動がイメージできず、なんとなく後回しにしていました。進め方も分からず「とりあえず内定が欲しい」と思い、自己分析も中途半端な状態で始めました。「もっと早く取り組めば良かった」と後悔もしましたが、一つ誇れるのは、興味をもった仕事や会社には臆せずアタックしてみたことです。行動したことで「自分に何ができるのか。足りないのか。」に早く気づき、次の志望先へシフトできました。

もう一度就職活動をするなら

一番に就職支援室に行きます。私は進路を決めていないことを負い目感じて、行くのを躊躇っていましたが、勿体無かったと思います。「就職支援室を制する者は就活を制する」と言われるくらい、支援室には就職に関するあらゆる情報があふれているので、まずはそこからスタートすると思います。

キャリアカウンセラーとしてのアドバイス

就職活動には学生の主体性が求められますが、それは全てを一人で抱え込むという意味ではありません。悩んだら、まずは誰かに話してみてください。自分のことをよく知っている友人や家族と喋ったり、先輩に体験談を聞いたり、就職活動の専門家と相談することで、何か突破口が見つかるかもしれません。時には自分と向き合う時間が辛くなることが

あるかもしれませんが、一生懸命取り組むことが、やりたい仕事を見つける第一歩かもしれません。

卒業生としてのアドバイス

山大生の皆さん、まずは大学生活を精一杯楽しんでください。勉強でも遊びでも、何か目標を持って経験したり、努力したりすることが、いつか必ず自分の糧になります。そして周りに居る友人は、社会人になってもきっと皆さんを支えてくれるはずです。同じ時間を共有できる今を大切に過ごしてください。

職場紹介



【山口県若者就職支援センター (YYジョブサロン)】

〒754-0014

山口県山口市小郡高砂町1番20号

山口県若者就職支援センター(YYジョブサロン)

TEL083-974-5120

E-mail: info@joby.jp

「働くこと」って

「働くこと」、就職するにあたって、ほとんどすべての方が考えることです。皆さんは、「働くこと」について、どのようなイメージをお持ちでしょうか。おそらく、質問されてみると、意外に答えにくいものだと気付くのではないのでしょうか。



岩見 晋后
(教育学部平成19年3月卒)
防府市課税課

現在の職場

現在は、課税課の市民税担当として、住民税の賦課決定とそれに付随する業務を行っております。

初年度に思った「働くこと」へのイメージ

住民税の賦課決定を行う、業務の性質上専門的な知識を必要とします。入所当時は、分からない点が多々あり、また、税額の賦課決定という業務の繁忙期だったこともあり、「非常に忙しかった」です。

しかし、1、2カ月経って、ある程度業務内容について理解できてくると、状況は一変しました。「知らないことを学べる、知ることができる」、そう思えるようになり、毎日の業務が楽しくなりました。まさに、「知る楽しさ」、働くことに楽しいイメージを持ちました。

2年前に思った「働くこと」へのイメージ

2年目に入って、もちろん、まだまだ知らない点がありますが、1年間通じて業務を体験したことにより、その内容を把握できるようになるとともに、その問題点も見えてきました。

そうすると、如何に今の問題点を解決していくか、それへの対応を考える日々です。まさに、「考える楽しさ」、日々の仕事も充実しています。

私にとって「働くこと」とは

このように、現在、私にとっての「働くこと」とは、非常に「楽しい」ことです。知らないことを知ることができること、問題を解決するためにどうすればいいか、日々考えることができるためです。「知る楽しさ、考える楽しさ」、これはどの職場でも当てはまることです。

最後ではありますが、「働くこと」のイメージは、各々異なるとは思いますが、働くことは「楽しい」ことです。将来働く楽しい職場をイメージしながら就職活動を乗り切りましょう。

職場紹介

【防府市役所】

〒747-8501
防府市寿町7番1号 TEL0835-23-2111(代表)



ちょっとお知らせ

学内業界・企業研究会 平成20年度開催スケジュール

- * 3年生・修士1年生を主対象とする研究会です。
- * (吉)は吉田キャンパス、(常)は常盤キャンパスです。
- * 2月10日からは春期休業となるため10時からの開催です。
- * 吉田キャンパスにてブース方式研究会を開催する12月23日・1月12日・2月11日は祝日です。
- * 1月16日～18日は大学入試センター試験のため、1月27日～2月2日は後期試験の第一週目のため開催しません。
- * 会場は別途お知らせします。共通教育棟以外を利用することもありますのでご注意ください。吉田キャンパスの食堂はボーノです。
- * このスケジュールは10月20日現在のものです。開催日程・時間は変更の可能性があるので、必ず最新情報をご覧ください。

2009年1月

日	月	火	水	木	金	土
4	5	6	7	8(吉)教室 16:30~18:00	9(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
11	12:00~17:00 (吉)ブース	13(吉)教室 16:30~18:00	14	15(吉)教室 16:30~18:00	16	17
18	19(吉)教室 16:30~18:00	20(吉)教室 16:30~18:00	21(吉)教室 16:30~18:00	22(吉)教室 16:30~18:00	23(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
25	26(吉)教室 16:30~18:00	27	28	29	30	31

2008年11月

日	月	火	水	木	金	土
23	24	25	26	27(吉)教室 16:30~18:00	28(吉)教室 16:30~18:00	29

2008年12月

日	月	火	水	木	金	土
	1(吉)教室 16:30~18:00	2(吉)教室 16:30~18:00	3	4(吉)教室 16:30~18:00	5(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
7	8(吉)教室 16:30~18:00	9(吉)教室 16:30~18:00	10	11(吉)教室 16:30~18:00	12(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
14	15(吉)教室 16:30~18:00	16(吉)教室 16:30~18:00	17	18(吉)教室 16:30~18:00	19(吉)教室 16:30~18:00	20
21	22(吉)教室 16:30~18:00	23(吉)教室 12:00~17:00 (吉)ブース	24	25	26	27

2月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3(吉)教室 16:30~18:00	4(吉)教室 16:30~18:00	5(吉)教室 16:30~18:00	6(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
8	9(吉)教室 16:30~18:00	10(吉)教室 16:30~18:00	12:00~17:00 (吉)ブース	14(吉)教室 10:00~18:00	15(吉)教室 10:00~18:00	12:00~17:00 (常)ブース
15	16	17	18	19	20	12:00~17:00 (常)ブース
22	23	24	25	26	27	28

山大的☆就職活動

就職活動を
もっとリアルに！

を理解するための用語集

山口大学では、学生たちが大学生活に対して安心感とともに確かな満足感、充実感を持って卒業し就職（あるいは進学）していくことを目標として、就職支援・キャリア形成支援に力をいれています。とくに本学の特徴的取組としては、①組織的活動、②教育連携、③相談重視 の3点を挙げる事ができるでしょう。入学から卒業まで学生をトータルに支援する大学教育機構が中心となり、各学部・研究科と連携して全学的に支援活動を展開すること、大学教育機構の専任教員が授業を通じて学生のキャリア形成に積極的に取り組むこと、そして、一人ひとりの学生を支援するための個別相談を大切にしていることです。

ここでは、山口大学の多彩な支援の中から全学的活動の一部をご紹介します。山口大学の学生が就職活動をリアルに、そして前向きにとらえることができるためのさまざまな取組です。



プレ企画のキャンパスフォーラム。
工学部体育館が会場です

学内業界・企業研究会

企業や官公庁で働く皆さまをキャンパスにお招きして開催する研究会です。11月の工学部体育館でのプレ企画にはじまり、12月～3月の開催期間中367社に参加していただきました（平成19年度）。働くことをもっとリアルに！就職活動をもっとリアルに！とらえるために開催する、山口大学がもっとも力をいれる就職支援の取組です。

学内業界・企業研究会は、山大学生にとっての「学びの機会・出会いのチャンス」。学生の皆さんは、大いに活用してください。



教室方式。共通教育棟に多くの企業の方に来ていただきました

学内業界・企業研究会とは、山口大学の学生が、業界動向や会社・仕事をより深く、よりリアルに理解できるよう、経営者・人事担当者、また、本学の卒業生など会社等でご活躍の皆さまをキャンパスにお招きして開催する研究会です。本学ではこの学内業界・企業研究会をキャリア教育の一環と位置づけており、学生たちはこの機会を活用して、幅広く業界・企業を研究し、就職活動ならびに自身のキャリア形成に役立てることを期待しています。
山口大学学生支援センター・就職支援部



常盤キャンパス食堂でのブース方式研究会



吉田キャンパス・食堂きららでのブース方式研究会



開会式の風景です

就職支援室

共通教育棟1階の玄関横、留学生支援室の隣に就職支援室があります。求人票や説明会情報などを提供するほか、企業名鑑やCSR報告書、業界研究書籍やビジネス情報誌など、就職活動に役立つ資料を多数配置しています。ここではデータベース「日経テレコン21」が利用でき、情報収集も万全。就職相談はもちろんのこと、面接練習・履歴書添削もOKです。いつも学生でにぎわっているのが就職支援室。どうぞお気軽にお越しください。



就職講演会・就職説明会

学生支援センターが主催する全学講演会では、著書『劇的内定術』で有名な坂本直文先生によるエントリーシート講座など、大好評の講演会が毎年開催されます。10～11月には、公務員試験説明会・教員採用試験説明会を開催するほか、就職ナビの活用法、就職活動の心がまえなど全学を対象とした様々な講演会・説明会が実施されます。このほか学部主催のものも多数開催され、それぞれの専門性にあった就職支援を展開しています。



ジョブスタディ

大手企業の人事担当者が山口に来て、働くことを直接語ってくれる異業種合同セミナー・ジョブスタディ。山口大学と山口県立大学・下関市立大学の三大学合同で開催する地域連携型キャリア教育の取組です。



働くことを
もっと
リアルに！

学生サポーター

学内業界・企業研究会のスタッフとして先輩たちを応援するのが1～2年生の学生サポーターたち。企業の方々のご案内や教室の運営に活躍しています。



授業「キャリアと就職」

共通教育科目『キャリアと就職』を開講しています。3年生を主対象としたこの科目は、「自分のキャリアは自分で考える」ための考え方を理解するとともに、働くための基礎知識を得ることを目的とする授業です。就職活動を経験した先輩や企業や官公庁で働く方々をゲストに招くほか、自分の問題としてキャリアを考えるための各種ワークを取り入れた授業で、就職活動にもおおいに役立っています。平成20年度は吉田キャンパス・常盤キャンパス（工学部）で計5コマ開講し、学生たちが履修しやすいように配慮しています。



YYジョブサロン in 山大

山口県若者就職支援センター（ジョブカフェ山口、愛称：YYジョブサロン）の就職相談コーナーが毎週火曜日と木曜日の2回、吉田キャンパスの就職支援室にて開設されます。個別相談のほか、面接練習会・グループディスカッション練習会、エントリーシート対策会など少人数のセミナーも実施しています。写真は、集団面接練習会の様子。就職活動で困ったら、就職支援室に行きましょう！ 山大生だけでなく、卒業生や地域の方も利用できます。地域社会と連携した若者支援の取組です。



授業「キャリアデザイン」

1年生を主対象とする共通教育科目『キャリアデザイン』。大学で学んだ“次”をしっかりと考えつつ、大学生活を有意義に過ごすための考え方と方法論を学びます。大学でのさまざまな活動を通じて自ら学びの世界を広げた先輩や、山口大学で学んだことを活かして各方面で活躍している社会人の先輩をお招きして、大学と社会の接続をリアルに学んでいきます。大学教育機構の専任教員が担当するもので、授業だけにとどまらず、各種支援活動や個別相談とも連携しています。



働くを研究する書籍コーナー

「働くこと」を学ぶのも、大学で学ぶことのひとつです。就職支援室には「働く」を研究する書籍コーナーがあり、学生たちは人生の先輩の生き方を通じてキャリアを学習します。ここには著名な経営者の本や『プロ論。』『理系白書』、『プロジェクトX-挑戦者たち』などの本のほか、授業で紹介するキャリア理論の書籍を多数とりそろえて学生たちの学びを応援しています。インターネット全盛の時代ではありますが、本でじっくり学ぶことも大切。学生たちが自分のキャリアを自分で選ぶ力をつけるためのコーナーです。



国家機関説明会

人事院・国家機関の説明会を毎年11月に開催しています。大学会館での全体説明の後、学生食堂さららの個別説明会で、官庁の人事担当者とじっくり話しをすることができます。



就職活動を
もっと
リアルに!

CHECK-MANIFESTO -ACTION ループ

本学独自の診断&メンタリングシステムによる社会人基礎力を高める取組です。経済産業省「体系的な社会人基礎力育成・評価システム構築事業」に採択され、産学公連携・イノベーション推進機構とともに実践しています。



就活 Information

キャッチフレーズは“山大学生が創る山大学生のための就職活動応援Magazine”。4年生・修士2年生による就職活動体験報告集「就活Information2008」が、2008年2月に完成しました。先輩たちの選択の理由、苦労話や嬉しかったこと良かったこと、そして気になるお金のことなど、先輩からの熱いメッセージともども掲載されています。毎年この時期に発行して5年目。この冊子は大学生協が発行し、無料で山大学生に配布しています。



公務員講座・教員講座

公務員を目指す学生、教員を目指す学生を支援するために、大学教育機構・学生支援センター主催の講座を行っています。平日は授業終了後、また、休業期間中を利用して学内の教室で行うもので、多数の学生が受講し、それぞれの目指す道へ進んでいます。写真は、夏のOB・OG交流会のひとつコマ。山大で学び、全国各地の官公庁で働く先輩方が後輩たちを応援するために山口に帰ってきてくれました。筆記試験対策はもちろんのこと、公務・教員の仕事理解にも力を入れています。



授業「キャリア形成とコミュニケーション」

3年生を主対象とする共通教育科目『キャリア形成とコミュニケーション』。働くこととコミュニケーションの大切な関係を学び、実践的に能力を高める授業です。傾聴や取材の技法を学ぶことや、自分のコミュニケーションスタイルを自覚した上で、しっかり聞いてきちんと伝える力を、グループワークを通じて養います。社会人の方へのインタビューを含む課題に取り組みプレゼンテーションをすることで、学生たちは大いに成長していきます。



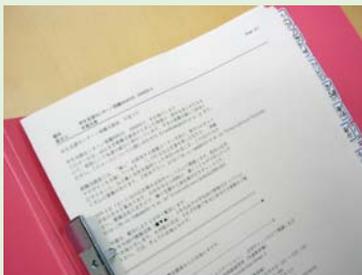
学内OB・OG訪問

全国で活躍する山大卒業生をお招きして開催する学内OB・OG訪問。学内にいらっしゃった先輩を自由に訪問し、先輩を囲んでざくばらんに仕事の話、就活の話聞くことができます。参加した学生からは「仕事の大変さややりがいがよくわかった」「給料やお休みなど聞きにくいことも教えてくれた」「就職活動への意欲が高まった」との声も。もちろん全国各地に先輩を訪ねていけばOB・OG訪問できますが、お金も時間もかかります。学内での機会を有効に活用してください。



就職 NEWS

就職支援室から毎週月曜日に配信される電子メールの「学生支援センター／就職 NEWS」。学内の就職支援行事や全国各地で開催される説明会のお知らせ、新着求人情報などリアルな情報をお届けしています。



就職活動交流会

「先輩の話がもっと聞きたいね〜」という学生の一言から始まった就職活動交流会は、夏・冬の2回開催する山大恒例の学生行事。就職活動を終えた4年生と3年生の交流、これから就職活動を迎える3年生どうしの交流を目的とした楽しいイベントです。写真は、グループディスカッションのひとつ。学生食堂を会場に小グループで先輩を囲んでの質問ラッシュです。このあとはグラス片手に交流の輪が広がり、就職活動の健闘を誓い合いました。



山大生
一人ひとりの
未来のために

就職相談

学生の個性、進む道はさまざまです。一人ひとりの進路をしっかりと支援し、個々のキャリア形成を応援するために、山口大学では個別の相談を重視しています。就職支援室には、職員のほか、YYジョブサロンのキャリアカウンセラー、そして、授業を担当する専任教員も常駐して、質問・相談いつでもどうぞ！の体制をとっています。写真は、合同企業説明会会場での山大生のための相談コーナー、福岡Yahoo! JAPAN ドーム内です。全国各地で活動する山大生の就職活動を応援しています。



理系大学院セミナー

理系大学院生の就職活動を支援するために、理工学・農学・医学系研究科と連携したセミナーを開催しています。修士2年生の体験報告のほか、研究職・技術職の採用動向を伝えることで、大学院生の就職活動をサポートしています。



▶お問い合わせ先

就職支援室 平尾元彦 教授

TEL : 083-933-5145 E-mail : hirao@yamaguchi-u.ac.jp

人文学部

自己分析から始まる就職活動

教授 就職支援委員長
高木 智見

就職活動における最大の難関は、実は職業の選択であると思われます。自分は何をしたのか、何ができるか、どのような人生を送りたいのか。これらの問題について、ある程度明確な解答を用意していないと、前に踏み出すことが難しくなります。たとえ踏み出しでも、なかなか自信が持てません。しかし社会が複雑化・流動化し、価値観が多様化している現在、就職を控える全ての若者に、自分なりの職業観・人生観を持つように期待することは無理であるとも考えられます。

それ故か、毎年、内定を確保しながら、喜ぶのではなく、そのまま前に進んでよいのか否かを躊躇する学生が少なくありません。また就職後の離職率も、相当高くなっているようです。要するに、就職活動に当たって最も重要なことは、自分なりの職業観・人生観を明

確化すること、つまり自己分析です。それには、当然、自分自身との対話が不可欠となります。

ところで、人文学部における学問の本質とは、言うまでもなく人間とは何か、社会とは何か、さらには自分とは何か、という最も根源的な問いを追求することです。人文学部の授業に真面目に参加している学生ならば、この点は誰もが感得してくれていると信じます。講義はもちろん、演習や講読の授業で、テキストを解釈し、他者と議論を進めること自体が、根源的な問いの追求そのものなのです。しかも、重要なことに、そうした問いの追求を具体化し、解決の方法を考え、実行することは、すべて学ぶ者自身の力量にかかっています。そのためには、常に自らを見つめ、自らに問うという作業、つまり自らとの絶えざる対話が不可欠となります。それは職業選択に当たっての自己分析とほぼ重なる作業であり、その意味では、人文学部の学生は、日々の学問や研究のなかで、自己分析の作業を行っているとも言えます。ぜひ、より一層、学問に打ち込んでください。

教育学部

教育学部の就職支援



教授 就職支援部長
藤原 マリ子

教育学部の学生は、教員養成課程の約6割が教職(正規・臨採含む)に就き、非教員養成課程の約6割が一般企業に就職しています(過去7年間の平均)。この就職状況に対応して、教員採用試験対策と公務員・一般企業就職対策との二本を柱に年間を通じてきめ細かな就職支援を行っている点が、教育学部の就職支援活動の特色です。支援には、就職支援部の教員・事務職員・各教室の担当教員・学外協力員など総勢37人が当たっています。主な支援活動は以下のとおりです。各種の企画を上手に活用して、ぜひ各自の希望を叶えてほしいと願っています。

【教員採用試験対策】

①教員採用直前セミナー(前期・16回)直前対策講義、

体育・ピアノ実技、面接・集団討論・模擬授業指導等
②学内模擬試験(通年・原則として週2回) ③教職教養ポイント講座(後期・12コマ) ④小学校全科ビデオ講座(後期・26コマ) ⑤公開模擬試験(年4回) ⑥教採対策講演会(11月)ほか

【公務員・企業就職対策】

①就職ガイダンス・講演会(5月・11月) ②職業適性検査・結果説明会(6月・7月) ③就職相談コーナー(原則として月2回) ④公務員採用試験体験報告会(11月) ⑤企業就職対策講演会(11月) ⑥企業就職模擬集団面接(12月)ほか

【就職情報の広報】

3・4年生に毎週メールで就職情報を配信するほか、毎月2回程度「就職ガイド」を発行・掲示しています。就職関係のHPも開設し情報を公開していますのでご覧ください。

(<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~syusyoku/>)

経済学部

経済学部の就職支援への取り組み



教授 就職支援委員長
藤原 淳

経済学部における就職支援の主な柱は、①就職ガイダンス、②同窓会組織である「鳳陽会」、③保護者との連携、④ゼミナール、さらに⑤公務員講座が挙げられます。

①就職ガイダンス

就職ガイダンスは、企業情報やノウハウの提供というテクニカルな支援を行うもので、月2回程度のペースで「就職実践講座」を開催しています。

②OB・OGとの連携強化

同窓会組織である鳳陽会を中心にOB・OGからさまざまな情報ネットワークとバックアップをいただきながら、毎年秋にはOB・OG懇談会を実施し、3年生が本格的な就職活動を始めるために有用な情報を企業説明会形式で提供しており、毎年多くの学生が積極的に参加して

います。

③就職関係懇談会

山口、福岡、広島で実施し、多くの保護者の皆さまにご参加いただき就職に関するご相談をお受けしています。また、年2回「就職通信」を発行し、連携の強化を図っています。

④ゼミナール

ゼミナールを通じて各教員の協力のもとに各学生の現状把握と就職情報の確実な伝達を心がけています。

⑤公務員講座

全学的なもの以外に経済学部でも別の講座を開設し、互いに競いながら公務員試験に臨める環境づくりを積極的に提供しています。

こうした柱をもとに就職支援活動を実施することで高い就職率を維持しながら大きな成果を着実に挙げています。



経済学部OB・OG就活懇談会の様子

理学部

インターンシップの促進にも努める
就職支援

教授 就職委員会委員長
白石 清

理学部では、就職相談室に相談専門員を配置すると同時に各学科(分野)に就職委員2人を置き、就職情報の提供、就職相談に当たっています。就職相談室では、理学部への求人資料を閲覧でき、インターネットで求人情報を検索できるほか、常備している就職関係書籍も自由に閲覧できます。毎年秋には「理学部OBによる業種別就職座談会・講演会」を開催しています。特に座談会は毎年参加者に好評をいただいています。また各分野教員による就職先開拓、学部生・大学院生向け就職セミナーの開催、職業適性診断(R・CAP)半額補助なども適宜行っています。

昨今の就職活動は3年次から始まっていると言えます。ですから、3年生の夏休み頃までには、個々の学生が進路に対して確たる目標意識を持っている必要があると思います。この点が不確定だと周りの情報に振り回され、就職が決まらない、または決まっても不本意である、という事態も起きます。対策の一つとして、理学部では民間企業で一定期間就業体験を行うインターンシップの促進に努めています。インターンシップは自分の適性を知り、企業とのミスマッチを防ぐために有効とされています。

理学部就職内定率は前年に比べて5ポイント上昇しています。一般企業の採用意欲は高いものの、学生には広い意味での実力が求められています。一方、教員や公務員の卒業時採用は難しく、このため就職内定率が下がる傾向にあります。

医学部

3・4年時の積極的な病院研修が
就職活動の鍵



教授 保健学科
市原 清志

医学部は医学科と保健学科からなりますが、医学科は卒業後ほぼ全員が臨床研修に従事するため、就職活動を要求されることはほとんどありません。一方、保健学科は、看護学と検査技術科学の2専攻からなり、看護学の学生は、国家試験合格後ほぼ全員看護師・保健師・助産師のいずれかの職種に進みます。これは、完全な売り手市場であり、昨年度は、就職希望者89人に対し求人依頼が767件あり、全員希望通りの条件で卒業までに就職先が決まっています。検査学の学生はそれほど自由度はありませんが、国家試験合格後臨床検査技師となり、就職希望者32人は病院や民間検査所

などの検査室勤務を目指し、約200件の求人があり、ほぼ全員希望通りの就職を果たしました。この意味で、医学部学生の職種はほぼ決まっております。就職支援活動も他の学部とは大きく異なっています。ただ、検査学の学生は製薬や試薬メーカー、教育機関の研究所への就職が可能で、特に大学院修了者はその傾向があり、その領域への支援活動が重要となっています。看護学の学生も、在宅看護の普及でそれを支援する企業への就職など、就職先の多様化が起こりつつあります。

いずれにしても、学生個人が積極的に就職先の選択を行っているのは、他学部と同じであり、就職支援としては、キャリアデザイン室の充実(求人資料の収集と掲示、情報検索への工夫)を続けています。一方、検査学の学生は、就職希望先病院への春期、夏期研修を積極的に行っており、研修が就職試験に先立つ個人面接であるため、濃厚な会社訪問に相当します。また看護学の学生も各地病院での研修が就職先選別の目を養う良い機会であり、積極的に推進しています。

工学部

工学部における就職支援



教授
キャリアデザイン委員会工学部委員
野口 三千彦

企業の求人活動とリクルート活動

工業生産の多様化や技術革新の展開などのために、工学部学生に対する本年度の企業の求人活動は例年になく活発なものでした。応用化学科を例にとると、一昨年が250件弱であった求人件数は270件を超え、各社が求人数を増やしているために全求人数は就職希望学生数をはるかに超えるものとなっています。ただ、「求人活動のオープン化」がここ数年来大企業を中心に強力に推進されており、学生側もその求人システムに順応できる環境ができてきたという印象を持ちました。「ネット」上でのリクルート活動は昨年の9月ぐらいから始まり、大学を訪問しての会社説明会も11月にはスタートしました。ところで、応用化学科学生が対象とする企業分野は広く製薬・化成品、一般化学工業・材料関連、食品関連、エネルギー関連、電器産業、機

械・自動車産業等があげられます。実はこの順に今年の1月ぐらいから「選考」のピークを迎えることになりました。

就職情報と就職支援

工学部では全学的に行われている学生支援センターの就職支援活動の他に、各学科就職担当教員および工学部学生支援担当が就職支援を行っています。工学部宛に届いた会社案内・求人票は、工学部就職情報資料室に整理されており、Webページ(<http://office.jime.yamaguchi-u.ac.jp/recruit/default.asp>)にて閲覧することができます。また、応用化学科では学科に届けられる就職情報は、学科事務室で保管し、学生がいつでも自由に閲覧できるようにしています。また、学生に対しては「就職活動の記録」を報告させて、就職活動へのモチベーションからエントリーシートの書き方、選考とりわけ面接試験の内容など情報と対策テクニックに関するノウハウが次の世代へと伝承されるようにしています。

最後になりますが、学科毎の支援に関する詳細については、各学科就職担当教員や学生支援担当者にお問い合わせください。

理学部

医学部

工学部

獣医学科で行っている就職支援の取り組み



准教授 獣医学科就職支援担当教員
奥田 優

はじめに

昨年度のYU Information No.85 (<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/you/yu85/you85.html>)では農学部全体で行っている就職支援について生物資源学科・教授・深田三夫先生が執筆されました。今回は獣医学科における就職支援についてご紹介したいと思います。

獣医師の職域について

獣医学科を卒業した獣医師の従事する職域は、一般にイメージされるような犬や猫などの診療(小動物臨床)、牛や馬などを対象とした産業動物臨床のみならず、農林水産省・厚生労働省をはじめとする国家公務員、県・政令指定都市・中核市の地方公務員、製薬会社を

はじめとする企業研究職など極めて多岐にわたります。すなわち動物診療業務のみならず、食の安全管理、感染症対策、野生動物保護管理、動物愛護業務、医薬品開発など、人間の生命に関わる分野も含め多彩な分野での活躍が求められています。

獣医学科における就職支援の実際

学部教育が6年制である獣医学科では、5年次のエントリーが一般的な企業研究職を除き、6年生に進級してから本格的な就職活動が始まります。獣医師を必要とする行政機関や公共団体、小動物臨床・大動物臨床業務を行う機関から就職担当委員に連絡があった場合、5・6年生のメーリングリストを利用して就職説明会の案内または求人に関する情報を配信しています。

本年4月からこれまでに農林水産省、厚生労働省、6つの県・市、2つの農業共済協会、4つの小動物開業病院の説明会を山口大学農学部で開催し、獣医師を必要とする現場と獣医学科学生の橋渡しを行いました。

今後もこのような機会を設けることが重要であると考えています。

留学生

サポートします!!留学生

留学生支援室(学生支援部学生支援課留学生交流係長)
室井 高雄

留学生の増加と国際社会の多様化とともに、卒業・修了後の進路も多様化しています。

帰国や進学などの従来から多かった進路に加え近年、日本国内の企業などに就職する留学生も増えています。(2007年中に日本企業等に就職した外国人留学生は全国で1万人を超えました。)

一方、ビジネスのグローバル化が進むにつれて、企業は盛んに海外進出を進め、グローバル人材の採用を検討する企業が増えてきています。

しかし、留学生が日本国内で就職するためには、日本人学生と同じ条件で就職活動をしなければならない、相当の労力を必要としますし、就職活動をするための情報もかなり不足していることが挙げられます。

そこで、留学生センターでは留学生の日本国内での就職を支援するため、就職支援室と連携して、第1に厚生労働省大阪外国人雇用サービスセンターの外国人労働者専門官をお招きして、「外国人留学生就職ガイダンス」を開催し、日本での就職活動方法、在留資格の変更と職業選択、就職活動のマナーなどを具体例に基づいて分かりやすく説明していただきました。第2に外国人留学生に山口県内企業の現状等を把握し、認識を深める機会を提供することを通じて、日本国内での就職を推進することを目的に中国地域ニュービジネス協議会協力のもと、「外国人留学生企業見学会」を開催し、マツダ(株)防府工場と(株)ヒロテック防府工場を見学し、日本の企業を知る貴重な機会を設けました。

今年の4月から留学生支援室と就職支援室が同じフ

ロアになりましたので、より連携を強化して就職に対する支援を積極的に行いたいと考えております。その一環として9月の2週目から、留学生のメーリングリストに「就職NEWS」を毎週配信することになりましたし、留学生のニーズに合った就職に関する企画を計画しております。

工学部では中国地域ニュービジネス協議会主催のもと、9月25日、26日の2日間「日本での就職を希望する留学生のための日本ビジネス理解講座」を開催し、留学生にとっても好評でした。

日本での就職を考えている留学生の皆さんは、できるだけ早めに就職支援室または留学生支援室に相談してください。場所は共通教育棟1階です。



外国人留学生就職ガイダンスの様子

▶お問い合わせ先

留学生支援室(学生支援課留学生交流係)
TEL: 083-933-5982 E-mail: ga142@yamaguchi-u.ac.jp

「アンテナを広げて探してみよう!!」



上田 瑞歩
人文学部 4年
2007年度就職活動交流会
学生実行委員会委員長



加田 巧
経済学部 3年
総合企画部広報チーム
インターンシップ生
9月16日～9月19日



人文学部4年生上田瑞歩さんは、1年生の時に先輩に誘われて就職活動交流会に参加して以来、2年生の時は実行委員、3年生の時には実行委員長として就職活動交流会に関わってこられました。今回は、昨年の就職活動交流会から実際の就職活動までの話を聞かせていただきました。

加田：就職活動交流会を通して上田さんの就職活動に役に立ったことは、どんなところですか？

上田：就職活動交流会では、いろいろな先輩からアドバイスをもらえます。どの先輩も就職活動は早めに始めなさいと言われ、早くから就職活動を意識するようになりました。

加田：就職活動交流会では、自分が志望している業界、職種とは全く違うところで就職活動をされた先輩の話聞くこともあります。参考になりましたか？

上田：全学部から先輩が集まってくれるのは就職活動交流会だけです。先輩の中には理系から銀行に就職されたり、経済学部からMR（医療従事者）になった人もいました。そういった先輩の話聞いて自分の専門にとらわれない考え方が出来るようになりました。私が全然知らなかった業界の話聞いてその業界に興味を持ち選択肢が広がりました。

加田：実行委員長をして一番大変だったことは何ですか？

上田：実行委員長は最終的な判断をしないといけません。私が実行委員長をした時の就職活動交流会のテーマは「夢を持とう」でした。このテーマで社会人の方を招いて講演をしていただく企画をしました。当初、講演会へ参加依頼していた方は、自分の夢を持って仕事をされており、どうしてもその方から話を聞きたくて、「喜んで参加したい」と言われましたが、勤め先の会社からの許可がなかなか下りませんでした。どうしてもその方の話を聞きたいけれど会社が許可してくれないかもしれない。明日まで待てば会社が許可してくれるかもしれない。そうした状況で決断をしなければいけなかったのが一番大変でした。結局、その方から話を聞くことを諦めて、山口大学のOBの方に講演を依頼しました。山口大学のOBの方も夢を持って働いている方で、OBということもあり、喜んで参加していただき、先輩の話聞くことが出来て本当に良かったと思います。

難しい決断ですごく悩みましたが、就職活動交流会を無事成功させ、達成感を持てたのは、就職活動交流会を成功させないといけない責任があったからだと思えます。

運営面では、就職活動交流会実行委員のみんなが助けてくれたので運営上で困ることは少なかったです。

加田：就職活動のスケジュールはどういったものでしたか？

上田：実際に行動に移したのは、3年生の9月にインターンシップに参加したのが始まりでした。全部で20社くらいにエントリーしてその内6~7社の面接を受けました。そのうちの1社から内定をいただき、その内定をいただいた時点で就職活動を終えました。就職活動の費用は総額で10万円程度でした。

加田：就職活動を通して志望先が変化することはありましたか？

上田：私は、「みんなが楽しんで暮らしてほしい。みんな楽しんで暮らすために自分ができることは何だろう。」という思いから就職活動を始めました。そこから考えていたのは医療や健康、美味しいものを食べて暮らせるような食品や、お年寄りが社会や遠くに住んでいる家族と関わって暮らせるようなIT、といった業界でした。私は老人ホームヘインターンシップで行ったのですが、それも、お年寄りや、障がい者の人が楽しんで暮らせるようにしたいという思いからでした。

私は最終的には山口大学生協から内定をいただきましたが、大学生協はみんなが助けあってできているところで、職場の雰囲気や考え方に共感しました。また、大学生協の仕事は、他の人たちに協力しようという時の手助けもしています。みんなが楽しんで暮らすための活動に自分が近い立場で関わることが山口大学生協への就職を考えた理由です。

就職活動を通して、「みんなが楽しんで暮らしてほしい。みんな楽しんで暮らすために自分ができることは何だろう。」という当初の思いが変わることはありませんでした。

加田：就職活動で一番辛かったことは何ですか？

上田：面接で落とされたことが一番辛かったです。就職活動を進めていって、1~2月頃から面接が始まりますが、落とされた時は何が悪かったんだろうとすごく悩みました。また、3月末に手持ちの駒が無くなった時は本当に辛かったです。また一から就職活動をしないといけなくなって、そこから気持ちを切り替えて動き出すのが大変でした。

加田：就職活動で辛い時に心の支えになったものは何ですか？

上田：友達ですね。お互いに就職活動をしている友達同士で情報交換をしたり、飲んで話したりしていました。就職活動交流会と一緒に活動した友達ですが、すごく行動力があり、物事を自分で決めてどんどん前に進んで行ける人で、私が就職活動で落ち込んでいる時に一緒に飲み行ったりし、彼女の元気を分けてもらいました。逆に彼女が悩んでいる時に私が彼女の相談相手になったり、お互いに助け合える友達がいたことが心の支えになりました。

加田：就職活動で一番役だったものは何ですか？

上田：スケジュール帳です。就職活動が本格的になるとスケジュール帳が真っ黒になるくらい予定が入り、スケジュール帳がないとどう動いて良いのか分からなくなります。面接の合間にセミナーや説明会に参加し、移動に時間がかかったりするので、計画的にスケジュールを立てないといけません。そのためのスケジュール帳が絶対に必要です。

加田：内定の決め手になったものは、自分では何だと思えますか？

上田：私が面接の時に気をつけていたのは、元気よく笑顔で、見栄を張らないということでした。見栄を張らないというのは、自分がしたいことを自分の言葉で伝えるということ、会社の方針と、自分がやりたいことが共感できることが大切だと思います。

私が内定をいただいたのは山口大学生協なんです。私は1年生の時から就職活動交流会の手伝いをし、4年間ずっと山口大学生協と関わってきました。山口大学生協は4年間ずっと見栄を張らない自分を見てくれていて、私がやりたいことと、山口大学生協が行っていることが共感できるものだ判断していただいたのが、内定をいただく決め手になったと思います。

加田：最後にこれから、就職活動をする後輩へメッセージをお願いします。

上田：まず、自分が何をしたいのかを考えてほしいです。どの企業に入りたいかの前にその企業で自分が何をしたいのか、その職業で何ができるのかを考えて、自分がしたいことをはっきり言えるようにしてほしいです。

自分がしたいことが明確に決まらない時は、とにかく色々なことにチャレンジしてください。新しい世界に飛び込むことで見つかることがきっとあります。それから、色々なことにチャレンジするきっかけを自分のアンテナを広げて探してみてください。合同説明会では目的の企業だけではなく、すべての企業を見てください。時間はかかるけど、お金はかかりませんよ。普段の生活の中でもアンテナを広げて見ていると思わぬ発見をすると思いますよ。

2008年4月10日、山口大学学生会館にて、スイスのベルン大学からクリストフ・モルゲンターラー教授をお招きし、講演会ならびにワークショップが開催されました。この度は一昨年10月の第13回講演会で演台に立たれたペーター・アッカーマン教授（ドイツ・エアランゲン大学、日本学）が、通訳兼コメンテーターとして同行されました。モルゲンターラー、アッカーマンの両先生は、中学時代からの友達ということで気心の知れた仲だそうです。

モルゲンターラー先生の経歴

モルゲンターラー先生は、1946年にスイスでお生まれになり、ベルン大学で神学と心理学を修められました。その後7年間牧師を勤め、1985年からベルン大学神学部で教鞭を執られています。その傍ら、ソーシャルワーカーや牧師の養成にも尽力されています。ご専門は宗教学ですが、主に心理学の手法を用いた研究をされています。

講演の内容

モルゲンターラー先生の講演は、「不安の克服—家庭教育と異文化理解」という題で、子どもの寝かしつけの際にそれぞれの家庭で行われる習慣の事例を、写真や動画を用いて紹介されました。子どもが自分の部屋で一人で寝る際の不安を取り除いてやるその習慣を、先生はリチュアル (ritual) と呼ばれていました。先生の研究によるとこのリチュアルには、歌・祈り・語り・抱擁の四点が主要な形態として挙げられるということでした。このようなリチュアルには、今日では宗教的な意味合いが薄れているが、それぞれの家庭においては依然として重要な役割を演じていると指摘されました。幼児期の家庭内でのリチュアルから、子供たちは不安の中で精神的安定を図る方法を身につけ、これがその後のさまざまな人たちとのコミュニケーション、更には外国人など文化的背景を異にする人



講師のモルゲンターラー教授(右端)と、資料を手に通訳・コメントするアッカーマン教授(左端)

人文学部第17回異文化講演会 「不安の克服—家庭教育と異文化間理解」



山根 洋平

大学院人文科学研究科地域文化専攻

と接する際の鍵となっているそうです。

先生がこうした研究に興味を持たれたきっかけには、寝る際に母親から物語を聞かされていたというご自身の経験が基にあるようです。講演では、その物語を絵本にしたものを示しながら、熱心に話をされていました。

講演後の質疑応答では、会場の聴衆からは数々の質問が先生に寄せられ、それに対して真剣にお答えになる先生の姿が印象的でした。

ワークショップ

講演に引き続き、テーマに関連したワークショップが開催されました。参加した学生に、幼少期の思い出の中でも特に夕方から夜寝る頃までの家庭内での過ごし方を中心に語ってもらい、また何に対して恐怖心を覚えたかなど、具体的な事例について話し合いました。

モルゲンターラー先生は、この度が初めての日本訪問ということもあり、日本人のリチュアルについて大きな関心を寄せておられました。学生たちが自分の具体的な事例を話している間も興味深く耳を傾けられ、ノートにペンを走らせておられました。先生はキリスト教世界とは異なる日本の事例を耳にされ、大きな驚きと発見があったようでした。

私は、今回のモルゲンターラー先生の講演やワークショップを通じて、家庭におけるリチュアルとその意味を知ることができました。特にリチュアルによって、子どもの心の中に安心感が得られている、という過程に関心をもちました。こうした観点を、今後私の研究にも活かしていきたいと思います。

▶ 学内連絡先

人文学部 ALAMDJUMALI研究室所属
TEL : 083-933-5220
E-mail : djumali@yamaguchi-u.ac.jp

はじめに

男女共同参画社会基本法（1999年）が制定された翌2000年に、「国立大学における男女共同参画を推進するために」（報告書）が国立大学協会の総会で採択されました。この方針は法人化後の社団法人国立大学協会にも引き継がれ、同協会企画委員会・男女共同参画に関するWGで「国立大学における男女共同参画推進の実施に関する追跡調査」が2008年9月までに5回実施され、3回目までの調査結果が公表されています。

山口大学イコール・パートナーシップ委員会は、2001年度に山口大学における男女共同参画の現状を明らかにするとともに、上記の国立大学協会の報告書を踏まえて、山口大学において男女共同参画を推進するための次のような11項目の提言をしました。

- ①大学としての理念と方針を確定し、その実現に向けた具体的方策を決めること、
- ②女性教員増加のために、教員公募システムを確立しポジティブ・アクションを導入すること、
- ③理工系をはじめ女性の少ない分野への女性の参画を推進すること、
- ④女性職員の昇進拡大や採用を増やすこと、
- ⑤非常勤講師の処遇及び研究環境を改善すること、
- ⑥教育カリキュラム及び研究活動における女性学、ジェンダー学の拡大と充実をはかること、
- ⑦研究における男女共同参画の推進及び女性研究者の研究環境の改善をはかること、
- ⑧性的差別を受けた際の不服申し立て制度（オンブズパーソン制度）を導入すること、
- ⑨セクシャル・ハラスメントの防止と問題に対処するため、イコール・パートナーシップ委員会が機能すること、
- ⑩育児環境を整備するとともに介護との両立支援をすること、
- ⑪山口大学における男女共同参画の取り組み状況等に関する調査を行い、統計資料等を公表すること。

さらに、2002年度にも男女共同参画の現状分析や部局長へのアンケート調査、教職員・学生への意識調査を行い、その調査結果から男女共同参画推進のための啓蒙・啓発活動が必要であることを加え、12項目の提言に改めて公表しました。

2002年度の「提言」から5年以上経過しましたが、男女共同参画に関する山口大学としての理念、方針、具体策を定め、その推進に必要な体制を確立する状況に至っていません。そこで、2002年度以降の教員、職員、学生等における男女共同参画の推移について確認し、今後どのように推進すればよいかを一緒にお考えいただきたいと思えます。

以下では、2002年度から2008年度の推移を統計的に示すとともに、国立大学協会のWGの追跡調査結果（公表されている最新の2005年度の結果）も紹介します。なお、2002年度の数値は「山口大学における男女共同参画推進のための提言」によるものです（各年度の数値は5月1日時点）。

1. 大学・教員の状況

山口大学の教員と職員の全体状況を表1に示しました。大学教員、附属学校教員では2002年度と比べて

山口大学における男女共同参画を推進するために—統計的分析から

女性の人数・比率が増加しました。職系別の職員については、一般職では人数・比率とも増加しましたが、技能職は人数も減少し、医療職、看護職では女性の人数は増えたものの、比率は低下しました。

教員の状況を職階別に表2に示しました。教授、准教授では2002年度よりも増えて全国平均をやや上回っていますが、講師は人数・比率ともに減少しました。そして、全体の女性比率は13.3%ですが、2005年度からは微増であり、国立大学協会が2000年に掲げた「2010年までに国立大学の女性教員比率を20%に引き上げる」という目標の達成はきわめて厳しい状況にあると言えます。

学部別教員の女性比率では、上記の提言でも指摘されたように、理系学部は相対的に女性教員の比率が低い状況です。2002年度からの推移でも、理学部は5.2%が5.9%に、医学部は17.5%が18.3%に、工学部は3.6%が6.3%に、農学部は3.2%が5.1%にというわずかな増加です。学部や大学院における女子学生の比率との大きなギャップが存在します。

表1 俸給表別在職状況 単位：人、(%)

俸給表	年	2002年		2008年	
		計	女性	計	女性
大学教育職	教員	888	93(10.5)	896	119(13.3)
	教務職員	9	4(44.4)	2	1(50.0)
附属学校教育職		108	31(28.7)	115	46(40.0)
一般職		435	98(22.5)	422	113(26.8)
技能職		21	4(19.0)	14	2(14.3)
医療職		73	38(52.1)	109	52(47.7)
看護職		391	382(97.7)	613	583(95.1)
合計		1,925	650(33.8)	2,171	916(42.2)
役員		-	-	8	0(0.0)

*女性欄は女性の人数(内数)と比率

表2 教員の職階別女性の人数及び比率の推移 単位：人、(%)

	2002年	2005年	2008年	全国2005年
教授	13(4.0)	23(6.7)	26(7.6)	(6.4)
准教授	23(9.0)	25(9.4)	32(12.1)	(11.0)
講師	23(22.5)	27(26.7)	18(20.7)	(16.8)
助教	-	-	33(17.4)	-
助手	34(16.8)	41(20.1)	10(8.3)	(16.2)
合計	93(10.5)	116(12.7)	119(13.3)	(9.3)

2. 職員の状況

一般職俸給表適用職員の階層別女性数及び比率の推移を表3に示しました。2002年度と比べて「その他の一般職員」でも、「副課長・専門員等」でも女性の人数・比率が増加しました。全体としても人数・比率が増加しましたが、「主任」では昇任と退職によって女性の人数・比率がかなり減少しました。

2005年度の全国数値と比較すると、全体での女性比率が全国の半分ぐらいで、「係長・専門職員等」でも同様に全国の半分ぐらいの比率です。このように、職員ではいくつかの階層で女性比率が高くなりましたが、係長職ではそれほど進展が見られず、主任職では減少が起こっていて、このまま推移してよいとは言えません。

表3 一般職俸給表適用職員の階層別女性の人数及び比率の推移
単位：人、(%)

区分	2002年		2005年		2008年		全国2005年 (%)
	計	女性	計	女性	計	女性	
課長・事務長以上	0(0.0)	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	1(2.9)	(8.6)
副課長・専門員等	1(3.1)	1(2.8)	5(14.3)	5(14.3)	5(14.3)	5(14.3)	(7.0)
係長・専門職員等	15(10.2)	12(8.5)	16(12.6)	16(12.6)	16(12.6)	16(12.6)	(23.6)
主任	48(45.7)	44(48.4)	31(40.3)	31(40.3)	31(40.3)	31(40.3)	(62.0)
その他の一般職員	34(29.1)	40(32.8)	60(40.5)	60(40.5)	60(40.5)	60(40.5)	(69.9)
計	98(22.5)	98(23.0)	113(26.8)	113(26.8)	113(26.8)	113(26.8)	(51.6)

*全国2005年の数値は国大協企画委員会WGの「第3回追跡調査報告書」による。

3. 非常勤の教職員の状況

非常勤講師の状況を表4に示しました。2002年度から非常勤講師は67人増加しました。とくに本務校をもたない非常勤講師の増加が目立ちます。女性の非常勤講師も10人増えましたが、比率では少し低下しました。

非常勤職員の状況は表5に示しました。まず、事務補佐員、技術補佐員の大きな増加と看護補佐員の減少が見られます。技術補佐員では数値上増加した44人がすべて女性となっており、女性比率も高くなりました。看護補佐員の減少は主として常勤職員への移行によるものです。これら以外の職種でも非常勤職員の増加が顕著に見られます。該当する職種は、医員、医師、非常勤研究員、嘱託職員、アドバイザー、カウンセラー、教諭補助員などです。これらの職種でも女性の比率が19%から31%へと高くなりました。

非常勤講師と非常勤職員を合わせて、2002年度から331人増加しましたが、そのうち女性は168人で約半数を占めています。但し、非常勤の教職員は不安定な就業形態でもあるので、女性が増加することが直ちに望ましい状況であるとは言えません。

表4 非常勤講師の状況 単位：人、(%)

区分	2002年		2008年	
	計	女性	計	女性
本務校をもつ専任教員から	226	24(9.6)	219	25(10.2)
教員以外から				
本務校を別にもつ者	177	21(11.9)	190	22(11.6)
本務校をもたない者	125	48(38.4)	185	56(30.3)
計	552	93(16.8)	619	103(16.6)

*女性欄は女性の人数(内数)と比率

表5 非常勤職員の状況 単位：人、(%)

区分	2002年		2008年	
	計	女性	計	女性
事務補佐員	147	143(97.3)	269	260(96.7)
技術補佐員	19	16(84.2)	63	60(95.2)
技能補佐員	10	5(50.0)	12	8(66.7)
臨時用務員	50	44(88.0)	48	41(85.4)
医療技術補佐員	30	25(83.3)	30	24(80.0)
看護補佐員	99	96(97.0)	22	22(100.0)
教務補佐員	1	1(100.0)	3	2(66.7)
小計	356	330(92.7)	447	417(93.3)
上記以外の職種	150	29(19.3)	323	100(31.0)
合計	506	359(70.9)	770	517(67.1)

*女性欄は女性の人数(内数)と比率

4. 学生の状況

学部別に学生の状況を表6に示しました。2002年度から工学部(夜)の学生が減少し、医学部の学生が増加しました。医学部では女子学生が増加し、いっそう女性比率が高くなりました。これ以外の学部では目だった変化は見られません。

大学院生の状況は表7に示しました。研究科の女性比率にかなり違いがあり、2002年度と比較しても変動はありますが、大学院生全体での女性比率は年々高くなってきています。それは、理工学や医学系についても言えます。

表6 学部別学生の状況 単位：人、(%)

学部	2002年		2008年	
	計	女性	計	女性
人文学部	882	572(64.9)	823	579(70.4)
教育学部	1,062	621(58.5)	1,080	624(57.8)
経済学部	1,771	624(35.2)	1,752	590(33.7)
理学部	1,003	272(27.1)	999	241(24.1)
医学部	823	437(53.1)	1,089	647(59.4)
工学部(昼)	2,564	343(13.4)	2,563	317(12.4)
工学部(夜)	353	22(6.2)	50	1(2.0)
農学部	661	310(46.9)	634	277(43.7)
合計	9,119	3,201(35.1)	8,990	3,276(36.4)

*女性欄は女子学生の人数(内数)と比率

表7 大学院別学生の状況 単位：人、(%)

大学院	2002年		2008年	
	計	女性	計	女性
人文学科(M)	37	20(54.1)	25	12(48.0)
教育学(M)	99	50(50.5)	90	49(54.4)
経済学(M)	53	23(43.4)	61	30(49.2)
医学系(MD)	310	83(26.8)	473	154(32.6)
理工学(M)	719	99(13.8)	673	97(14.4)
理工学(D)	178	15(8.4)	118	14(11.9)
農学(M)	87	44(50.6)	74	30(40.5)
連合獣医(D)	83	23(27.7)	100	27(27.0)
東アジア	30	14(46.7)	45	23(51.1)
技術経営	-	-	44	3(6.8)
合計	1,596	371(23.2)	1,703	439(25.8)

*女性欄は女子学生の人数(内数)と比率

5. 山口大学における男女共同参画を推進するために

イコール・パートナーシップ委員会が山口大学における男女共同参画の状況を公表した2002年度以降、教員、職員、非常勤講師、非常勤職員、大学院生などで女性数も比率も増加しました。しかし、このまま推移してよいと言えないこともすでに述べてきました。国大協が2005年度に調査した結果によれば、山口大学の教員の女性比率(10.5%)は89国立大学中40番目となっています(第3回追跡調査報告書、p.133-135)。同調査報告書によれば、男女共同参画の推進組織を設置している大学は2001年度に12%でしたが、2005年度には34%に増加していて、推進するための指針等を制定している大学も増えていて記されています(p.21)。実際の取組においても、女性教員の増加を目指して大学の目標を定めたり、「ポジティブ・アクション」*を採用したり、教育研修機会の提供等を通して女性教職員の昇進の拡大を図ったり、大学の意思決定の場への女性の登用を図るなど、各大学での努力が紹介されています。こうした全国の状況に鑑み、山口大学においても真剣な取組を開始すべきではないでしょうか。

私たちは、大学としての推進組織がつくられ、イコール・パートナーシップ委員会が2001年度及び2002年度に提言したことを男女共同参画の現状を踏まえて、その推進組織で検討されるよう強く希望します。

*「ポジティブ・アクション」(男女教員数の著しい格差の積極的改善措置等)としては、教員採用における女性候補者の積極的発掘、採用・昇任等において資格が同程度の場合に性バランスを配慮する制度の実施、若手女性研究者のキャリア形成の支援が行われています(第3回追跡調査報告書、p.24)。

▶ 学内連絡先

総務部人事課副課長(服務担当)

TEL : 083-933-5017 E-mail : sh021@yamaguchi-u.ac.jp

基本をたいせつに

三間地 光宏
(准教授 経済学部 経済法学科)

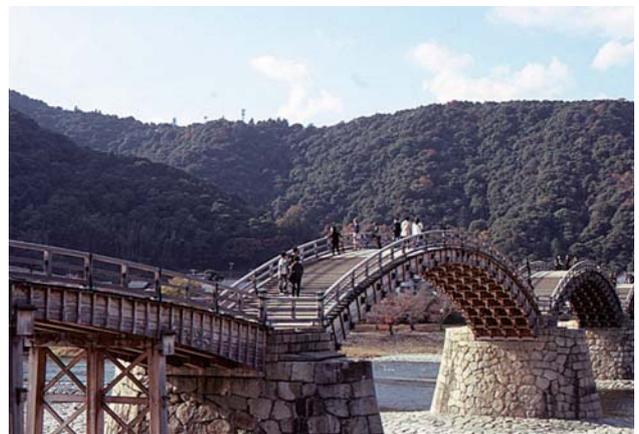


■民法という法律

私は経済学部で民法の授業を担当しています。民法は1044条まである法律で、契約に関するルール、損害賠償に関するルール、所有権などの権利に関するルール、親族関係に関するルール、相続に関するルールなど民事のいろいろな問題についてルールを定めています。

■民法の位置づけ

民事の法律問題に関わりのある法律としては商法や消費者契約法など民法以外の法律がたくさんあります。学生さんのなかには「自分は将来企業法務に携わりたいから商法には興味があるが、民法には興味がない」という方がおられるかもしれませんが、そういう方の場合も民法を勉強しないわけにはいきません。というのは、民法が民事の法律問題についての原則的ルールを定める法律だからです。これに対し、商法や労働法などは民法のルールに対する例外を定める法律です。つまり商法・労働法などは、民法のルールを適用すると不都合が生じる事柄についてルールを修正するための法律であって、民法のルールどおりで不都合がない事柄についてはとくに規定を設けていないのです。民法と他の法律との間には以上のような関係がありますから、企業法務だろうと労働法務だろうと民法の知識が必要不可欠です。



錦帯橋を見るとき、美しい木組みのアーチに目が行きます。しかしそのアーチが、敷石で周囲を固められた石組橋台によって支えられていることにも注目してください。応用的・先端的な法分野を勉強するときも、民法など基本をおろそかにはできません。

■経済学部のカリキュラム

経済学部では民法を「民法Ⅰ」～「民法Ⅴ」の五つに分けて教えていますが、民法の知識が商法や労働法などを学習する前提になるので、五つの民法科目のほかに1年生を対象とした「法学Ⅱ」という科目を設け、その中で民法の初歩的なことを教えています（法学Ⅱの内容はそれだけではありません）。

■私の授業について

法律学は説明が抽象的になると理解しづらいので、毎回具体的な設例を書いたプリントを配付して授業を行っています。また、基本的なことをしっかり理解してもらうことを重視し、あまり細かな論点にはふれないよう心がけています。

食料の地理学

荒木 一視
(准教授 教育学部)



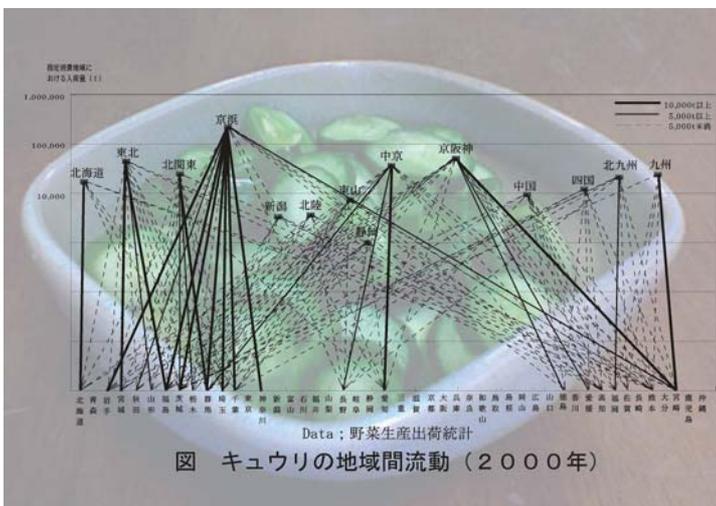
私の研究は「食料の地理学」というものです。といっても「何それ？」といわれるのが精々です。というのも、日本で今こういう看板（研究テーマ）を掲げているのは私しかいないからです（もっとも海外に目を向けると決してマイナーではないのですが）。

さて、「食料の地理学」を簡単に説明しましょう。一言で言うと、「私たちの食べているものはどこからやってきているのか」という研究です。わずか百年前には当時の私たちが日常的に食べているものはほとんどが当時の私たちの目に見える範囲で作られていたのですが、今日では毎日口にするものでさえ、どこで作られたのか分からないものがほとんどです。例えば、今朝のおかずのキュウリの漬け物だってキュウリの産地から直接台所に届いているわけではありません。産地から出荷された後、どこかの漬け物工場で加工されて再度出荷され、スーパーの店頭で並んだものを買ってきているのです。

さらにキュウリ産地、漬け物工場、スーパーの間には複数の青果物卸や加工食品卸などの業者の手を通過していることも少なくありません。また、こうした食材が海外からの輸入品である場合にはその経路はもっと複雑になります。

朝ご飯のおかずのキュウリの漬け物だけでも、これだけややこしいのに昼ご飯に夕ご飯、おやつのお菓子や仕事や授業の合間に飲むコーヒー、コンパで浴びるほど飲んだお酒や翌日締切に追われながらほおぼる夜食のおにぎり…もうきりがありません。しかし、こうした巨大で複雑な食品・食料を供給する仕組みも、決して自然に出来上がったわけではありません。誰かがその仕組みを作り上げたのです。目には見えないけれど、そこにはさまざまな経済的、政治的、あるいは文化的な力が働いているのです。

私たちが毎日食べている食材がどこで作られているのかを意識することがないように、その巨大で複雑な食品・食料供給の仕組みについてもわからないことがいっぱいあります。そしてそれを解き明かそうというのが私の研究です。



キュウリの地域間流動
下方に示しているのが産地で、上方に示しているのが消費地、両者を結ぶ線の太さがキュウリの地域間の移動量を示す。背景は今朝のおかずのキュウリの漬物

▶ 学内連絡先

TEL : 083-933-5320

E-mail : arakih@yamaguchi-u.ac.jp

<http://www.edu.yamaguchi-u.ac.jp/~soc/GeogrHome/arakigeography/Welcome.html>

東アジアのなかの日本近世

森下 徹

(准教授 大学院東アジア研究科)



■ 「武威」による統治

日本の近世、江戸時代をめぐっては、ひところの「江戸ブーム」の喧しさは下火とはいえ、平和、闊達、エコな暮らし…を賛美する書物が依然書店に平積みです。

こうした「陽気な歴史」を横目で見ながら、近年の歴史研究はこの時代の特異性・異常性に注目しています。それは同時代の東アジア世界との比較によって浮き彫りになるもので、官僚制と朱子学が統治する中国、朝鮮と対照的に、「武威」すなわち軍事力が社会を圧伏し、またその傘の下で「平和」も維持されていたとする見方です。それは近代日本とアジアとの関係を二重映しにしたものともなっています。

■ 武家奉公人の研究

その驥尾に付すのが私の研究となります。「武威」によって民衆を靡かせる、もっとも手っ取り早い方法は軍事力をそのものとして見せつけることです。参勤交代がなぜ行われていたか。藩に財政負担を強いてその力を削ぐため、というのは全くの俗説ではありません。鉄炮部隊、弓部隊、長鎗部隊、そして騎上の武士。これらからなる壮麗な行列は、将軍のもとに全国の大名が結集していることを誇示する、何より効果的な軍事パレードなのでした。

そうして大名に従う武士たちは、格に見合っただけの供連れを伴う必要がありました。しかも往々にして手段と目的との関係が転倒し、たくさんの供を連れているものがそれだけ格の高い武士と見なされる。だから必要以上に供を引き連れ派手な恰好に飾り立てて、同輩たちを出し抜きたい。そうした身分意識は武士の間に抜きがたくありました。ときどき時代劇で、江戸市中を単身で闊歩するサムライを見ることがありますが、それは非常に恥ずかしいことで、供をどれだけ従えるかでその武士の格が見定められたのです。

ところが供連れとして雇われる奉公人は都市に流れ込んだ単身者が多く、かれらにとってそうした身分意識など彼岸のことでしかありません。仲間を呼び込んでよごと博奕に興じる。奉公先を勝手に逃げたし、別の働き口で平気で居着いている。いわれた仕事に、あれこれの理屈を並べ立て手を付けようとなし。失うものは何もない、裸一貫の「プロレタリアート」としての独特な気風、ネットワークをもって幕府や藩の秩序を脅かしていました。江戸幕府の誇る「武威」も、不安定で危険な足元に抛るしかなかったということです。

■ 現代社会を見つめる基礎科学

考えてみればこの問題を、卒論からすでに四半世紀も追いかけていることとなります。たまたま今朝の新聞で、ノーベル賞のきっかけとなった発想を風呂場で得たとの記事が目にとまりました。歴史研究のような基礎研究にもっとも必要なものは、発想を「はぐくみかたちにする」自由な時間であって、最大の敵は「時は金なり」とばかりに迫りかかる不毛な成果主義だとの思いをあらためて強くします。

世界を席卷する新自由主義の時代は盤石のようだったのに、その綻びが世界各地で目立つようになっています。有為転変の世の中であって、長いタイムスパンで物事をじっくり根底的に考える。それは大学が何より大事にすべき研究の姿でしょう。これからも奉公人の世界を足場に、近世やひいては今日の日本社会のありようを地道に考えつづけたと思っています。

▶ 学内連絡先

TEL : 083-933-5331

E-mail : morisita@yamaguchi-u.ac.jp

教員から寄せられた著書



地域防災とまちづくり —みんなをその気にさせる災害図上訓練

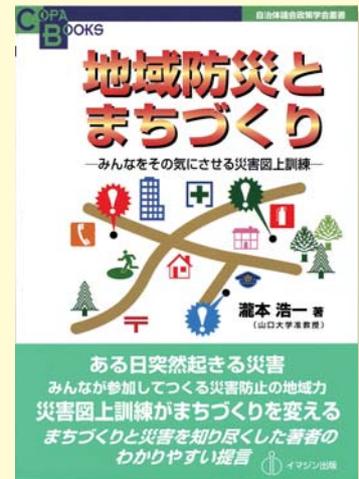
(瀧本浩一著 イマジン出版 2008年5月7日発行)

これまでの地域防災、自主防災組織の育成の解説書には、避難訓練や炊き出しなど、いわゆる戦術的な個々の事例説明に終始したり、防災士に代表されるように資格取得の推奨や災害メカニズムの説明を中心とした知識重視の解説ものが多くあります。しかし、地域防災を担うのは、結局そこに住む資格無用の住民リーダーであり、時間とともに知識が薄れゆく住民と強固な風習、複雑な歴史を背景を持った、その土地固有のコミュニティー構造の中で活動を進めていく必要があります。さらに、「最近、まちづくりをやらうとしても、全く人が集まってこない。」「自治会活動だけでも大変なのに防災まではちょっと…」など地域力低下への不安が多い中、住民は「幽霊」のようにまだ見ぬ災害や地域に潜んで見えない危険性を模索し、活動をしなくてはなりません。一方、このような背景の中、地域防災を指導する者が、これら「地域コミュニティーの脈」を見ることなく、住民ができない活動を押しつけて持続不能な状況に追い込んでいるのも地域防災の現状です。

これらのことを踏まえ、本書では、筆者が年間40力所を超える地域での防災啓発活動を通して得た考え方を基本に、住民自身が無理なく、自分達にあった防災

活動を創出するための戦略を説明しています。本書の構成は「地域の災害観」→「地域を知る」→「活動を考える」→「活動を定着させる」といった活動を進める順となっていて、特に、筆者が全国で実施している地域防災の導入部となる災害図上訓練T-DIG(まちづくり系災害図上訓練)の一部を掲載し、防災にとらわれないコミュニティー活性化への手法の解説に力点を置いています。

本書は自治体議会政策学会叢書シリーズの一冊として発刊しましたが、地方議員の方だけではなく、地域のリーダーや市民活動の方々、地域を何とかしたいという方を対象に執筆しています。これらの方々にご一読していただき、本書が地域活動支援の一助となれば幸いです。



瀧本浩一 准教授 大学院理工学研究科
TEL: 0836-85-9538 E-mail: takimoto@yamaguchi-u.ac.jp



『Global Mobility』

(Munehiko ASAMIZU ed., Kumpul Co. Ltd, Tokyo, 2008年5月23日発行)

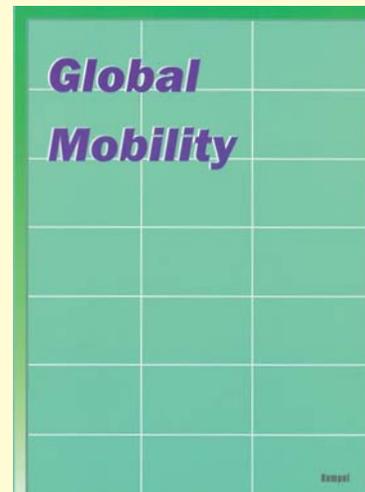
本書は観光や留学、国際会議など、主に非定住で世界各地を移動する人々について多様な事例を英文で紹介することを目的としています。近年、国際的な人的移動はますます盛んになり、もはや一部の国や地域の事象ではありません。たとえば国際会議の場合、ニューヨークやロンドンだけでなく、シンガポールや香港でも盛んに行われています。さらに、旅の目的が複合化しており、仕事と余暇の線引きも難しいのが現状です。たとえば国際会議の開催地として、ビジネス街だけでなく、モナコやラスベガスなどの一大観光地が選ばれることが多くなりました。

留学もまた目的が多様化しており、送り出し側の知識習得だけでなく、受け入れ側の外貨収入源として見られることも多くなりました。留学はアメリカ合衆国やイギリスだけでなく、オーストラリアやニュージーランドにおいても一大産業になりました。非英語圏の国々でも留学生の受け入れに力を入れるようになり、

日本でも留学生30万人受け入れ計画が掲げられるようになりましたが、中国では孔子学院を世界各地に設立して積極的な文化広報活動を行っています。

本書では、執筆時に日本に在住していたさまざまな研究者が各々の専門分野を書きまとめ、学際的に編集しています。そのため、海外事情に興味のある日本人

だけでなく、日本事情に興味のある外国人にも、日本と世界各国の比較社会論として本書が幅広くお役に立てれば幸いです。



朝水宗彦 准教授 経済学部観光政策学科
TEL: 083-933-5560 Email: masamizu@yamaguchi-u.ac.jp



新版 観光経済学の原理と応用

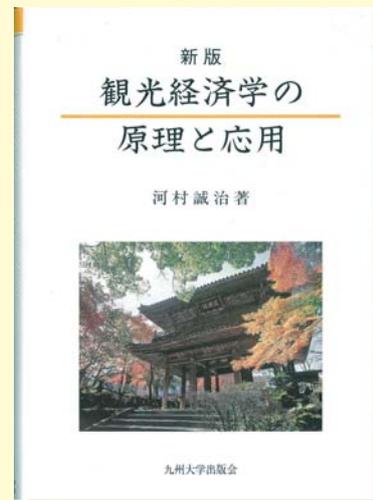
(河村誠治著 九州大学出版会 2008年5月25日 初版発行)

観光経済学は、今日の大量観光を観光公害という点から否定するのではなく、その社会経済的な影響力に着目し、その発展の法則性(原理)を明らかにし、観光経済をリードしてきた観光産業ばかりでなく地域経済ひいては国民経済の拡大再生産に積極的に貢献しようとする応用経済学(applied economics)です。この領域の教育・研究書は、欧米を中心として、近年では中国で少なからず刊行されてきましたが、わが国では久しく物財生産とくに工業経済が重視されてきたこともあり、数えるほどしかありません。

本書は2004年に九州大学出版会より発行した『観光経済学の原理と応用』の原理部分を若干改定すると共に、応用部分を変化の著しい現実に対応して大幅に増補し、初版として発行したものです。全316ページの本書は13章からなります。その章立ては順に、観光総論、観光商品、観光商品の需給関係、観光価格、観光消費、観光投資、観光マーケット、観光産業、観光収入と分配、観光の経済波及効果、わが国のインバウンド・ツーリズムの概況と地域経済の振興、産業の空

洞化と観光振興、観光の持続可能な開発となっています。

近年の観光を取り巻く環境は、世界的な宗教的・民族的な紛争、乱高下する原油高、サブプライムローン問題など、国内外で決して良いものではありません。それでも観光経済のパイは世界規模で拡大し続けるものとみられ、わが国では2007年1月の観光立国推進基本法の施行、2008年10月の観光庁の設置となりました。こうした情勢もあり、観光経済に関心を寄せる教育・研究者や学生ばかりでなく、業界や官界で活躍しておられる人々なども本書の読者として想定しています。



河村誠治 教授 経済学部 観光政策学科
TEL: 083-933-5517 E-mail: kawamu@yamaguchi-u.ac.jp

よくわかる 三力『構造力学・土質力学・水理学』演習

(山本哲朗編著・朝位孝二・進士正人・鈴木素之著 2008年6月20日発行)

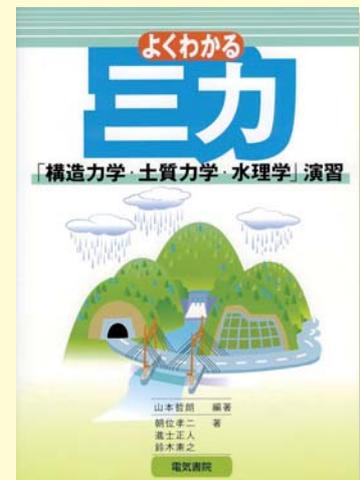
土木系・建設系の学科では、構造力学・土質力学・水理学(これらを総じて本書では三力という)は必須科目あるいはそれに準ずる科目です。例えば地盤上に橋を造る際には、橋の形状、土の強さ、水の流れが関連し、三力の知識や技術が必要になってきます。

これまで、三力のそれぞれの教科書や問題集は相当数のものが発刊されています。これら三力では同じ専門用語や同じ式等、関連する点も多くありますが、大多数の学生諸君はそれに気付かずに勉強しているように思われます。

本書では4人の執筆による第1章で三力の基礎となる力学と数学の基礎について要点と問題を記述し、高校で物理を選択していない学生に特に力学の知識を習得させるように配慮しています。第2章の構造力学は

進士正人が、第3章の土質力学は鈴木素之が、第4章の水理学は朝位孝二が担当しました。

本書の大きな特徴は上述しましたように、三力間の関係を理解させることに主眼を置くとともに、基本問題、演習問題、発展問題といったぐあいに段階的に問題の難易度を高め、学生諸君だけでなく、各種の資格を取得したい方々に利用できるように工夫がなされています。また、解答も懇切丁寧に記述されています。



山本哲朗 教授 大学院理工学研究科
TEL: 0836-85-9302 E-mail: tyamamoto@yamaguchi-u.ac.jp

朝位孝二 准教授 大学院理工学研究科
TEL: 0836-85-9318 E-mail: kido@yamaguchi-u.ac.jp

進士正人 教授 大学院理工学研究科
TEL: 0836-85-9335 E-mail: shinji@yamaguchi-u.ac.jp

鈴木素之 助教 大学院理工学研究科
TEL: 0836-85-9303 E-mail: msuzuki@yamaguchi-u.ac.jp

編集後記

暑かった夏も終わって秋になり就職活動も本格化してきました。本号は就職活動の時期に合わせ「就職活動をもっとリアルに！」という特集を組みました。学長をはじめ教育学生担当副学長、学生支援センター長を交えて、学生・就職活動を応援するための対談を行いました。また各学部の就職担当教員からも学部での取り組みを具体的に記述していただきました。

山口大学では、教員・職員が一丸となって学生の就職のためにさまざまなサポートをしています。入学して4年後あるいは6年後に確実に就職できることを願って、学生の力を引き出し、共に育くむ活動に当たっています。

世界的に経済が不安定な世の中ですが、就職状況が明るくなることを望んでいます。
(福田 隆眞)

◎山口大学Webページ<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/>



表紙説明

附属山口中学校の生徒たちは、自分を表現することに大変真摯に取り組みます。本校では、「自己を表現したくなる授業の創造」という主題で研究を進めています。「表現」を結果として表わされたものだけに限定せず、授業等で生徒が課題に対して葛藤している内面までも表現の前段階として大切にしようと考えました。さて、今年の学園祭では、生徒たちは「愛」というテーマを文化部門の展示・発表や体育部門を企画運営する過程で表現しようと奮闘しました。毎年、テーマの象徴となるシンボルは、4メートル近い高さのタワーが風雨に耐え、安全上問題のないものにするために青森のねぶたづくりのノウハウを導入しています。シンボルタワーづくりは、生徒が表現したいアイデアを形にしながらも確かな耐久性をもたせることで初めて実現するものです。他にも、体育部門の「表現」(よさこいをアレンジした身体表現)で、縦割り集団が一丸となって各色のテーマを演じきる姿には心を打たれます。学園祭は生徒の表現への意欲があふれる場面なのです。

山口大学広報誌第八十九号

平成二十年十一月二十八日発行

編集発行 山口大学広報委員会

(総合企画部広報チーム)

住所 山口市吉田一六七七一

電話 (〇八三) 九三三一五〇〇七

FAX (〇八三) 九三三一五〇一三

E-mail sh011@yamaguchi-u.ac.jp

(本紙に関するご意見・ご感想をお寄せください)

印刷 ㈱マルニ

広報委員会委員

村田 秀一 (総務企画担当副学長)

福田 隆眞 (教育学部 総務企画担当副学長補佐)

坪郷 英彦 (人文学部)

菊屋 吉生 (教育学部)

成富 敬 (経済学部)

宮田雄一郎 (理学部)

坂井田 功 (医学部)

浜本 義彦 (工学部)

藤間 充 (農学部)

何 暁毅 (大学教育機構)

近久 博志 (産学公連携・イノベーション推進機構)

三池 秀敏 (大学情報機構)

長畑 実 (エクステンションセンター)

富永 倫彦 (アドミッシヨンセンター)

中尾 淑乃 (総合企画部広報チーム)

※ 次号は3月31日発行予定です。(5月・7月・11月・3月の年4回発行予定)